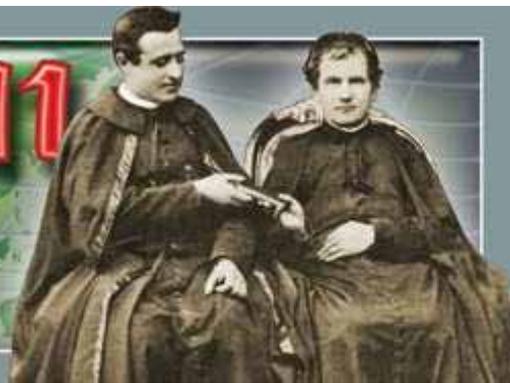


# CAGLIERO<sup>11</sup>

カリエロ11

サレジオ会宣教ニュース N.33 - 2011年9月



親愛なるサレジオの  
宣教師、サレジオ・ミ  
ッションの友人の皆  
さん!

信じられないよ  
うなことです!

毎年、サレジオ会

の40の管区から何百人もの若者たちがサレジオ会宣教ボランティア活動に参加し、12ヶ月後、いつもの生活に戻っていきます。何千人もの子ども・若者が、宣教地で数週間の体験をした後、国に帰ります。家に帰った後で、その多くが大きなカルチャー・ショックにさらされます。出身の小教区やユース・センターに、前と同じようには馴染めないのです。ボランティアの体験は、人生観やキリスト者としての生き方を変えてしまうからです。生ぬるい環境、あるいはダイナミズムに欠けた状況の中で、方向性を失ったように感じます。イタリアの6つの管区の400人の若者たちにとっても同様です。彼らは毎年、2日間にわたって集まり、宣教地を垣間見た体験を分かち合います。9月、毎年の宣教派遣の前に、コッレ・ドン・ボスコでのHarambéeに集った若者たちに耳を傾けるのは、非常に豊かな体験です。はっきりしていることがあります。宣教地での夏の体験の後で、すべてのグループに共通することです。イタリアに帰るのがどれほど難しいことか!

そう、まさに帰国後、ボランティアの若者たちを母国でのサレジオ・ミッションにいかに関わってもらおうかということは、宣教ボランティア活動の挑戦です。特に中南米やアフリカで惜しみなく働いた一年を終えて、ヨーロッパや米国に帰る宣教ボランティアは、出身の管区に大きな貢献をすることができます。元ボランティアたちは、熱意あふれるア

ニメーター、協働者、コオペラトリーになれるのです! 事実、すでに、何年も前にボランティアとして参加したのがきっかけでサレジオ・ミッションに関わるようになった、二人の管区宣教促進担当者(SUE、SUO)がいます!

宣教体験を終えて帰ってきた若者の皆さんに、私のあいさつを送り、祈りを約束します! どうぞ、来てください。皆さんの家の近くのすばらしいサレジオ・ミッションも、皆さんを待っています!

*Vaclav Clement*

宣教顧問  
ヴァツラフ・クレメンテ神父

普遍的な宣教の使命は、  
皆のもの、いつも、すべてに関わるもの!

福

音をたえず告知らせることにより、教会も活気づき、同時に、教会の熱意や使徒的精神も活性化します。また、福音宣教は司牧の方法を刷新し、新しい状況-新たな福音化が必要とされるような状況-に司牧の方法をよりよく適応させ、宣教への熱意によって活力を得させるのです。「宣教活動は教会を刷新し、キリスト者の信仰と自覚とを活性化し、新鮮な意気込みと新しい刺激を与えるからです。信仰は、他者に伝えられるときに強められます。教会のこの普遍的使命に献身することにおいてこそ、キリスト者の新たな福音化は励ましと支えを見いだすのです」(教皇ヨハネ・パウロ二世回勅『救い主の使命』2)。

復活した主に出会った人は皆、エマオの二人の弟子のように、そのできごとを他者に告知知らせる必要を感じます。パンを裂いてくださったときに主だと分かった後、彼らは時を移さず出発して、エルサレムに戻りました。そして、十一人の弟子が集まっているのを見て、自分たちに道中で起こったことを知らせたのです(ルカ24・33-35参照)。

教皇ヨハネ・パウロ二世は、いつも目覚めていて、主のみ顔を認め、「主を見た」という喜びの知らせを皆に伝えるために駆け出す用意をするよう、信者を促しました(教皇ヨハネ・パウロ二世使徒的書簡『新千年期の初めに』59参照)。

福音の宣教はすべての人に向けられています。教会は「その本性上、宣教することを使命とする。なぜなら教会は、父なる神の計画による子の派遣と聖霊の派遣とにその起源をもっているからである」(第二バチカン公会議『教会の宣教活動に関する教令』2)。

「福音を伝えることは、実に教会自身の本性に深く根ざしたもっとも特有の恵みであり、召命です。教会はまさに福音をのべ伝えるために存在しています」(教皇パウロ六世使徒的勅告『福音宣教』14)。したがって、教会は決して自らの中に閉じこもることはできません。教会が特定の場所に根をおろすのは、さらに遠くへ行くためです。キリストのことばに従い、聖霊の恵みと愛に動かされた教会の活動は、キリストへの信仰に人々を導くために、すべての人とすべての国民の前に全き姿をもって現存するものとなるのです(第二バチカン公会議『教会の宣教活動に関する教令』5参照)。

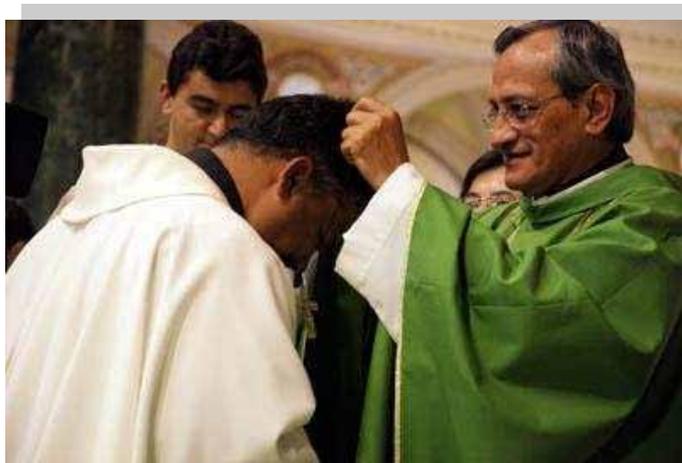
この責務はいまだその緊急性を失っていません。実に「教会にゆだねられている救い主の使命は、その成就からはほど遠い状態にあります。……人類全体を見わたすと、この使命はまだ始まったばかりであり、わたしたちはこの使命を果たすために、全力でかかわらなければならないことが分かります」(教皇ヨハネ・パウロ二世回勅『救い主の使命』1)。

宣教は普遍的なもので、あらゆる人、あらゆる物、あらゆる時に及びます。福音は受けた人だけのものではなく、分かち合うべきたまものであり、伝えるべきよい知らせです。

「世界宣教の日」が、すべての人にキリストをもたらすために人に会いに「行く」という願いと喜びを、各人のうちに目覚めさせますように。

教皇ベネディクト十六世

2011年世界宣教の日メッセージより(抜粋)



第142回宣教師派遣のメンバーは、9月1日から始まった新宣教師のためのオリエンテーション・コース(ローマ、トリノ)に参加し、2011年9月25日、扶助者聖母大聖堂で総長から宣教の十字架を受けます。

名前	管区	派遣先	名前	管区	派遣先
ARULANANDAM, Alphonse神父	INM	アイルランド	MANINGA, Lucas神学生	AFC	ベネズエラ
AYALA, Pedro Maria神父	MEG	オランダ	MARIASUSAI, Raj Arockiam神父	INT	オランダ
BEREK, Antonio神学生	ITM	オランダ	NGUYEN, Dominic Viet Binh神学生	VIE	アイルランド
BOIX PUIG, Santiago神父	URU	アンゴラ	NGUYEN, Peter Anh Duy神学生	VIE	パラグアイ
CHOVAŇÁK, Jan神父	SLK	シベリア	NGUYEN, Joseph Vu Thanh Phuong神学生	VIE	アルゼンチン
BINH, Dominic Nguyen Vien神学生	VIE	アイルランド	NONGRUM, Simon神学生	ING	オランダ
DE NARDI, Giampiero神父	ICC	グアテマラ	PHAN, Joseph Anh Tuan神学生	VIE	ベネズエラ
DANG, Cosma Joseph The Lam神学生	VIE	バングラデシュ	PORTUCHAY, Roman神学生	EST	ナイジェリア
DIAS, Jacinto神父	INP	南アフリカ	SWAMY, John Paul神学生	INT	フランス
IVANČIČ, Peter神父	SLO	キューバ	SZCZYPA, Roman神父	PLE	英国
JURAO, Joel神父	FIS	パキスタン	THOTTUPURATHU, Shiju James神父	INC	グアテマラ
GIA, Joseph Luu Vu Quoc神学生	VIE	パラグアイ	TRAN, Paul Xuan Binh神学生	VIE	アイルランド
KELELA, Isidore Mbokolo神父	AFC	モロッコ	TRAN, Joseph Hoang Phuc神学生	VIE	英国
LEO, Arockiam Thomas John神学生	INT	中東	VALIYAKATTEL, Mathew神学生	INK	中東
LIONELLI, Roberto修道士	ICC	チュニジア	YANG, Jeon Shik Mark神父	KOR	英国
LUU, Joseph Vu Quoc Gia神学生	VIE	パラグアイ			

### 南アジア-インド



### サレジオ会の宣教の意向

インドの教育・社会事業にたずさわる会員たちが、イエス・キリストとその福音の信頼に足るあかしを差し出すことができますように。一人ひとりのうちに深く体験された神を人々と分かち合うことによって。

「イエスの物語を語る、または信仰の体験を分かち合う」ことは、2009年11月にムンバイで開かれた第一回インド宣教大会(Prabhu Yesu Mahotsav, <http://indianmissioncongress.blogspot.com>)によると、多宗教・多文化の社会で福音を告げる最良の方法です。キリスト者でない人々の間で、イエス・キリストへの信仰を生き方を通して広めることは、すべてのキリスト者に呼びかけられています。そのために、一人ひとりが神の体験を深め、生活全体をもってその体験を分かち合うことが求められます。



ご意見をお送りください。 [segrgia@donboscojp.org](mailto:segrgia@donboscojp.org)